

三〇四三番

露霜つゆしもの 消易けやすき我が身あみ 老おいぬとも またをち反かへ
り 君きみをし待またむ

三〇四四番

君待きみまつと 庭にはのみ居をれば うちなびく 我が黒髪くろかみ
に 霜しもそ置おきにける

三〇四五番

朝霜あさしもの 消ぬけべくのみや 時ときなしに 思おもひ渡わたらむ
息いきの緒をにして

三〇四六番

楽浪ささなみの 波越なみこすあざに 降ふる小雨こさめ 間あひだも置おきて
我が思おもはなくに